


 YOUTH
CLUB

2024年10月号(No.20)
公益社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
東京都千代田区四番町5-4
<https://www.jac1.or.jp>

3カ月に一度発行する「山」ユース版では、ユース世代の会員の活躍をご紹介します。ユースクラブに関心のある方は、ユースクラブ委員会のメールアドレスにご連絡ください。

✉ youthclub-kanri@jacmember.com

【編集担当】
松原尚之
滝沢守生
谷山宏典
田島圭悟
新井 梓

カナディアン・ロッキー ユース合宿報告

6月26日～7月10日にかけてカナダのスコーミッシュとキャンモアで合宿が開催された。日本からは9名が参加してそれぞれの成長につながる合宿となった。



昨年に続いて2回目となるカナダ合宿はスコーミッシュとバガブーを目標にして出発した。スコーミッシュでは連日の雨。バガブーでは例年のない積雪量の多さで取り付く

ことが叶わずキャンモア周辺の岩場へ転進となったが参加した隊員にとって学びの多いものであった。海外でのクライミング……聞くだけではハードルが高いように思われるかもしれない。しかし、カナダには日本以上に懐の深い岩場が待っている。

今回のメンバーは下が24歳から上が59歳までの10名。前半のスコーミッシュではテント生活。後半のキャンモアでは貸別荘のような場所での共同生活となった。職業や年代が異なるメンバーの集まりではあったが、山やクライミングが好きという共通項を持ち、楽しく過ごすことができた。また、スコーミッシュとキャンモアのそれぞれの街では現地に住む日本人にも手を貸してもらい、山岳会が持つ人のつながりが感じられる交流となった。

前半に滞在したスコーミッシュでは花崗岩のクラックでのクライミングが中心。緯度の高いカナダでは20時ごろまで日が明るいので、朝から晩までひたすらクラックを登ることができる。そして幅広いグレードが密集しているため、どの岩場でも気

軽にトライできて登れば登るほど上手になっていった。なかにはグレード更新することができたメンバーもいて、よい合宿の前半を飾った。後半はキャンモア周辺でのクライミング。こちらは打って変わって石灰岩を中心とした岩場。ショートルートではクラックとは違う多彩なムーブ。またキャンモア周辺はアルパインクライミングも盛んで、街から望める特徴的な山「ハーリンピーク」にもトライした。標高差600m以上の脆い石灰岩の壁はとても刺激的で、バガブーに行くことは叶わなかったが日本で体験できない大きな壁に取り付くことができた。

3年にわたって開催されるカナダ合宿の2年目も大陸特有のスケールの大きな岩を体験し、成果をあげることができた。来年には日本人にゆかりのあるアルバータ山での登攀も予定している。海外でのクライミングや登山に挑戦したいと思っている人は、グレードや力を言い訳にせず、ぜひ挑戦してみてほしい。懐の広い大陸の山々があなたを強く成長させてくれるに違いない。(ユースクラブ 田島圭悟)



目指せ！北鎌尾根 2024 年間報告

エピソード1：北鎌への道のり

2024年から始まったユースクラブの新企画。自分たちで北鎌尾根のようなバリエーションルートを安全に登ることができるようになる、連続講習登山「目指せ！北鎌尾根」。全5回の講習と北鎌尾根本番の様子をエピソード1と2に分けてレポートします。



北鎌尾根から見た槍ヶ岳の威容

今年のユースクラブでは「目指せ！北鎌尾根」と題し、半年で全5回にわたりステップアップする講習登山が企画された。

第1回は丹沢のモミソ懸垂岩とモミソ沢。松原尚之委員長と千葉支部の平野直子さんが講師となって、モミソ懸垂岩でのロープワーク基礎から講習スタート。ロープワークにすでに慣れている人もいれば、ほぼ初めてという人もいた。

私は過去に数えるほどの経験があるものの、とても久しぶりだったので、少し手間取りながら練習した。翌日は沢登りでの実践。ヒルにヒヤヒヤしながら、途中でロープワークの練習をし、現在地把握の難しさを感じながら沢登りを楽しんだ。

第2回は、両神山の大ナゲシ・赤岩尾根。バリエーションルートの今回は松原さんの都合が悪く、杉原ガイドと西田由宇さんが講師を務めてくれた。2人1組となって、先頭を歩くペアがルートファインディングを楽しそうにしていたのが印象に残っている。ロープワーク自体は問題なかったが、ロープを出し

て、登って、ロープを仕舞うまでの一連の動作をもっとスムーズにすることが必要との指摘。これは反復練習をするしかない。ロープを出したほうが良いのか、ロープ無しでも登れるのかどうかの判断が難しかった。

第3回は表妙義。小さな岩稜の登り降りが続く、これでもかというくらい、クライミングとロープワークの練習になった。この頃になるとクライミングが楽しくなってきた。第4回は明神岳～前穂高岳の予定だったが天気が思わしくなく、丹沢のマスキ嵐沢に変更となった。前日、キャンプ場で初め

てのツェルト泊を経験した。朝方に少し雨が降ったが、思っていたよりも中が濡れることなく安心した。翌日の沢では積極的にロープを出しての練習。ロープワークにも徐々に慣れてきたが、さらにスピードアップが必要だと実感した。

第5回は前回延期となった明神岳南西尾根の予定が、これまた天気が思わしくなく、クライミングジムでの練習となってしまった。私は参加できなかったが、かなり特訓を積んだとのこと。あとは覚悟を決めて本番を迎えるのみとなった（次頁のエピソード2へ続く）。

＊この原稿は北鎌尾根の本番が終わって、東京に戻ってから書いている。槍ヶ岳頂上の小さな祠が見えた時の感動は忘れることはないと思う。諦めなくて良かった。メンバーの助けがあってこそその登頂だった。お忙しいなか、このような機会を作って下さった松原委員長をはじめとする講師の皆様、一緒に練習を重ねたメンバーの皆様にご心からの感謝を申し上げます。
(ユースクラブ 杉本美香)

エピソード2：槍ヶ岳を目指せ！ 北鎌尾根本番！



半年間一緒にがんばった仲間と

ついに本番の日がやってきた。9月13日から16日までの計画上の4日間をどう使うか、装備や食事等、メンバーで議論しながら当日へと臨んだ。計画は実動3日間、4日目は予備日。2日目を北鎌尾根アタックの日と決めた。

予報によると山行予定期間中の天候が不安定なため、当初案で行くか日程変更が最後まで議論したが予定通り出発し、現地、北鎌沢出合で判断するとした。結果、北鎌尾根アタック日の前後は雨であったが、北鎌尾根アタック日の天候は最良の日となった。本当に最良なタイミングでアタックできたと思う。

上高地から水俣乗越までは一般ルートであるが、水俣乗越からバリエーションルートになる。一般登山者通行不可のロープを越えて北鎌沢出合を目指す。トレースはあるが崩れやすいうえにかなりの急斜面を下る。出合到着直後、大雨となる。ツェルトの設営に難儀し、雨の中で就寝するという快適ではない夜となった。しかし、翌朝起きると星が綺麗に輝いていた。雨が上がったのだ。北鎌尾根アタック決行である。

北鎌沢右俣のガレ場を登っていく。数力所で登攀要素のある場所もあった。途中で水場があったのはうれしい。北鎌尾根ルートは水場が基本ないのである。北鎌沢のコルからしばらくは容易なルートが続き、独標手前まで来た。この辺りは事故の多い箇所

である。独標へ多くのパーティは千丈沢側に巻きながらピークを過ぎ、そこから独標へ直登していく。有名な逆「コ」の字のトラバースもその途中にある。今回はトラバースせず、そのまま直登した。ロープ登攀によりナイフリッジを経て独標への登頂を果たした。ここで槍ヶ岳がドーンと目の前に見えるのは最高である。

独標から北鎌平まで細かなピークを刻みながら進む。足場は狭く、崩れやすい。ここはルートファインディングが最も重要なエリアである。不明瞭な分岐を誤って先に進んでしまうと、戻るのに苦労し体力を消費し、大きなリスクを生む。そのため慎重にルートを選びながら進まなくてはならなかった。

北鎌平からは槍ヶ岳山頂を目指すのみとなる。しかし山頂直下は登攀要素が求められる。難しくはないが登山靴のため慎重に登る。そして……ついに山頂の祠に出た！ 山頂にいた多くの人が喝采してくれたのが心に残っている。そう私はこの喝采を浴びたくてここに来たのだ。こうして私の北鎌尾根は無事達成されたのだ。

この企画を実施してくれた松原委員長と半年間共に過ごせたメンバーに感謝を言いたい。また、諸事情によりメンバー9名全員での登頂は果たせなかった。山は逃げない。次回また全メンバーで登ればこんなに嬉しいことはないと思っている。

(ユースクラブ 西村信昭)



緊張のナイフリッジ通過

夏の小川山集中合宿から



高度感のあるフェースで懸垂下降の訓練をする

8月10日～13日の4日間、ユースクラブの夏合宿を小川山（廻り目平）にて実施した。昨年の夏合宿は涸沢をベースに穂高を登ったが、今年は廻り目平でキャンプしながらクライミング中心の合宿を行うことになった。東京、大阪、兵庫、滋賀、岐阜、松本など各地から19名と大勢参加してくれた。初日、2日目は松原の秘密の岩場でトップロープ中心のクライミング、3日目は懸垂下降やロープワークの練習、最終4日目はガマスラブ右壁で雨

が降り出すまで登った。また2日目には小川山から八丁平を周回するコースを3名が歩きに出かけた。

4日間のキャンプ&クライミングは楽しい時間であったが、1つ大きな反省事項は、2日目の午後、1人がトップロープをかけ替えようとして懸垂下降し、ロープのすっぽ抜けによるフォール事故を起こしてしまったことである。約7m墜落したのだが、地面が柔らかかったことなどが幸いし、誠に僥倖ながら、かすり傷程度で済んだ（念のため病院に行き、検査を受けた）。事故を起こしたのは十分な経験を有する、参加者の中でもリーダー的立場のメンバーであったが、気の緩みと、「ロープの末端が地面に届いているか確認する」という懸垂下降の基本の1つを怠ったために、このような大失敗を起こしてしまった。クライミングはたとえゲレンデであっても、常に重大事故のリスクを内包している。これからクライミングや本格登山を志そうというメンバーたちには、常に緊張感を持って、基本を忠実に守ることを忘れずに、続けてほしいと願う。
(松原尚之)

ユース山行情報板

第3回ユース交流会 2024 in 広島が開催

今年3回目を迎えるユース交流会を11月2日（土）～4日（月・祝）の日程で、広島の三倉岳、天応烏帽子岩山で開催する。

過去1回目は広島、2回目は岐阜で開催し、本部ユース、広島、東海、関西、信濃、東九州、東京多摩、岐阜などたくさんの支部メンバーが参加。この交流会を機に、支部同士でユース世代の横のつながりも深まっている。今年も素晴らしい環境の広島の岩場を登り、新たな仲間に出会えるのが楽しみだ。

学生部が未踏の ブンギ峰に挑戦

9月5日、学生部ブンギ登山隊が日本を出発した。久しぶりとなる学生部のヒマラヤ登山隊は、青山学院大4年の井之上琢磨（昨年度学生部委員長）を隊長とし、東大、立教大、中央大など4つの大学山岳部の現役学生5人で構成される。ブンギ（6,524m）はネパールのアンナプルナ山域にある未踏峰で、2022年秋にヒマラヤキャンプ隊がトライした山である。学生部隊は58日間という長めの日程を組み、キャンプも増やして初登頂を目指す。